平成 22 年度　第１回　平塚市博物館協議会　会議録

開催日時

平成 22 年 5 月 21 日（金）14 時～16 時

開催場所

平塚市博物館　特別研究室

会議出席者（敬称略）

会　長　　立山　洋典

副会長　　牧野　久実

委　員　　村松　芳男、森島　啓子、宮川　重信、毛利加代子

事務局　　鳶館長、澤村館長代理、石森担当長

会議の概要

１　会長・副会長選任

２　会長・副会長あいさつ

会　長　本来、評議会委員として客観的にご提言しなければいけないのですが、身内意識が強くなり、庇うようなことが多くなります。初心に帰って、当館の発展につながるような提言をしていきたいと思います。

副会長　重い仕事ですが､委員の皆様のお力添えをいただきながら進めていきたいと思います。

３　議　題

（１）事業報告について

〇平成 21 年度

１．入館者状況

２．プラネタリウム観覧者状況

３．教育普及活動

４．春期特別展事業

５．収　入

〇平成 22 年度

１．第５回博物館こどもフェスタの開催結果

以上について、澤村館長代理から協議会資料により説明。

〔質疑応答〕

会長　高齢化社会の進展で、文化施設の利用者は探求心旺盛な高齢者が多いですが、そうした需要に応える必要がある一方、心配されるのは、余裕のない時代に若い人や子供たちが文化をどのように継承していくかが大きな問題だと思います。当館も子供を意識した啓発的事業を展開していると思いますが、子供だけの入館者数の推移・傾向はどうなっているのでしょうか。

事務局　『平塚市博物館年報』（№33）の「活動成果数値」の表とグラフにありますように、子供の入館者数は漸減し、大人の入館者数は右肩上がりになっています。今、子供数が減っている状況があるので、逆に大人の比率が増えているとも言え、意識的に特定の年齢層や子供に焦点

を当てた事業を展開しない限り、自然にこのような形のグラフになるのではないかと思います。こどもフェスタのような子供にスポットを当てた事業で来館者数が増えることは確かなのですが、では特別展などの展示で、そうした子供向けの内容の展示を行えるかというと、現実には各学芸員が調査・展示するテーマは、子供さん向けには簡単には使いにくい内容になっています。我々も何とか良いテーマをと思うのですが、まだ見つかっていないのが現状で、どうしても単発になってしまいます。良い知恵はないでしょうか。

副会長　教育普及分野でむずかしいテーマを噛み砕いて扱うことについては、専門家を雇うなど、いろいろな博物館でも苦労されているようです。平塚市博物館は学芸員さんが色々なアイデアを出されていて素晴らしいと思うのですが、一案として、大人と子供の狭間にあるような大学生・高校生など、平塚市博物館で職業体験や実習をされている方達に、別立ての展示を制作させ学ばせるだけでなく、既に今ある展示を子供にわかりやすく噛み砕いた形にして、展示に加えていくことも可能かな、と思うのですが。子供の頃の博物館での経験をもとに、博物館の難しい点をわかりやすく説明するにはどうするかという勉強は、学生側にもメリットがあると思います。

事務局　ある程度長期に渡って来てもらう場合は、学生さんが単位を取るうえで成績に繋がるようなものであるとメリットになりますね。

委　員　公民館に来る子供達の見たい・知りたい・調べたい・してみたい、というさまざまな要望に応えようとする時、公民館ではなく直接博物館に行ってみたら良いのでは？という場合があります。博物館に行けば地域のこんなことが分かる、博物館でこんなことができるということを、もっと子供向けにアピールする資料のようなものがあれば良いと思うのですが。

事務局　実習生の展示制作で子供向けの展示を意識させたことも何度かあり、それなりに楽しいものが作れました。ただ７日間連続で来ていただくので、実習生にはかなりきつい課題なのかなと感じています。実習生にしてみれば博物館はどういうところかということを勉強して消化するのが精一杯で、展示という手法で行うことに結び付いていないように感じています。日程などシステムを調整すれば、有効な展示が作れるかと思いますので、これから検討したいと思います。

委　員　子供の来館者数が減っているということは、親御さんが心配するなど、子供だけで博物館に行くことに縛りがあるのでしょうか。高校生・大学生のグループなどがボランティアで子供達を送り迎えができるようなことができれば、楽しい思い出が作れて良いと思うのですが。

副会長　子供というのは小学生以下ということでしょうか。

事務局　カウント者の印象で判断したもので、何歳以下というようなはっきりした区分ではありません。

副会長　高校生・大学生のような、大人と子供の間にある層が利用者にあり、子供達と触れ合う機会ができればと思うのですが、それは博物館から遠ざかる年齢のような印象を持っています。それをまずどう引きつけるか、かもしれないですね。

委　員　総合や社会科、プラネタリウムで、カリキュラムによって設定されている部分はある。

それに加えて自主的に、担任、子供中心に活用というと、学校に対しての宣伝等をどのようにすればよいかということでしょうか。

委　員　年間指導計画で学年ごとに博物館を利用することになっています。遠足校外学習などで立ち寄る場合もあります。そうした機会で、学校では一度は博物館を利用することになる。子供同士という点では、安全面もあるので、子供同士で行くとあぶない目に会うことも考えられる、そういう話はしています。

事務局　それらを勘案して、事業はできるだけ親子で楽しんでもらえるものや環境を心がけるように考えていきたいと思います。

会　長　広報をどう活かすかということと、子供の利用については学校の協力、働きかけを得られると効果が大きいということのようですね。

（２）今後の予定について

１．大型資料（地曳船）の搬入

２．館内の燻蒸等

３．夏期特別展「（仮）市民が探る平塚空襲」の開催

４．平成 22 年度博物館実習生の受け入れ

５．博物館まつりの開催

以上について、澤村館長代理から協議会資料により説明。

〔質疑応答〕

委　員　寄贈資料の受け入れについて、何か基準はあるのですか。

事務局　とくに定まった規則というものではなく、担当学芸員の判断で、貴重な資料かどうか、今博物館にあるものかどうか、しまう場所があるかどうかといった点を考え、条件を満足していれば、あまりお断りすることはありません。貴重な資料が失われることがないよう、スペースとして学校の空き教室をお借りするなど、何とか受け入れるようにしています。

委　員　私の経験からも、資料を受け入れる場合、寄贈者から何らかの活用が求められると思いますが、博物館として、寄贈資料をしまっておくだけでなく、それぞれの部門別のリストや保管体制ができていて、将来的な活用に向けての計画などがあるわけですね。

事務局　大変厳しいご指摘です。そちらに寄贈品コーナーがあり、毎月展示を行っていますが、当館の設立時に、寄贈資料を収蔵庫にしまい込んだままでは寄贈された方々に申し訳ありませんので、必ず１回は展示して日の目を見るように、ということを意識して作ったコーナーです。ただ現在、博物館の収蔵庫がいっぱいになり、市内各所に分散して保管していますので、いったんそうした形で収蔵されてしまいますと、現実的には活用がむずかしい資料もあります。ご指摘の通りで頭が痛いところです。

副会長　寄贈品コーナーはとてもいいなと思っています。平塚市博物館の姿勢の一つが表われていますね。市民とのコミュニケーションが感じられて素晴らしいと思います。

事務局　寄贈品コーナーは毎年４月・５月を、前年度に寄贈いただいた資料を人文系・自然系に分けてご紹介する展示に当てています。ただ今回のように大型の資料の場合は、別の展示の形を考えなければと思います。

会　長　寄贈資料がどう扱われているのか､寄贈していただいた方にも報告されているのですか。

事務局　受け入れ手続きは個々の専門分野の学芸員が担当していますので、その対応が多少まちまちになっているかもしれません。

会　長　お知らせしたほうがいいですよね。丁寧に扱われているということになりますので。

事務局　４月・５月の展示は新着資料ですので、寄贈いただいた方には何らかのお知らせをしていると思います。今回いただいた平塚最後の木造地引船も、トラックで運んで倉庫に収蔵するまで漁師さん達にご協力いただいてお世話になりました。大変な量の資料ですが、通路を確保して公開できるようにしたいと思っています。

委　員　学校内の空き室に収蔵されている農具や昔の生活道具などの博物館資料を授業のなかで活用しているのですが、このような収蔵資料があることをもっとＰＲして､“学校へ行こう週間“などの時期を見学期間にあてるなどして活用すれば、寄贈された資料も、寄贈された方の願いもうまく活かされるのではないかと思います。学校としては大変有効に活用していますので感謝しているのですが。

事務局　“学校へ行こう週間”というものがあるのですか。

委　員　県内のどこの学校でもやっています。地域の方々も良く来られます。学校の授業や校舎内を見学しますので、ここにはこういう資料があるということで、その期間だけ博物館の方やボランティアの方に来ていただければ良いと思います。

事務局　良いお話をうかがいました。

委　員　本来は展示室ではなく「収蔵」という形なのですか。

事務局　基本的にはそうですが、通路はあって説明のラベルなどは用意されているのですが、そのような利用機会があるのでしたら、見学を意識して、ラベルなど並べなおしできます。

委　員　学校が持っている古い資料なども併せて上手に展示すれば、工夫次第で見ていただくことが可能かなと思います。

会　長　市民が学校内を見学する期間は年に２回ぐらいですか。

委　員　年に１回、１～２週間です。学校のほうで管理しても良いのですが、博物館の資料ですから。

会　長　良い案ですが、博物館の職員がずっと詰めるのは大変でしょう。

事務局　その時期を教えていただければ、展示としてご覧いただけるよう、対応いたします。

委　員　昔はどこの学校にも地域の歴史や遺跡の資料を展示する部屋があったので、そういうのは良いですね。ただ収蔵して置いてあるという形ではなく、見学していただくために体系立てた形にする必要がありそうですね。

会　長　何か他には・・博物館で長く活動されていて、何かご意見がありますか。

委　員　２階の常設展示で「失われたもの」のコーナーを、もう少し充実してもらえればと思い

ます。

事務局　私達も何とかしたいと考えているコーナーですので頑張りたいと思います。展示する資料の出し方をどうするかを考えて、長い先の話ではなくお応えできるようしたいと思います。

（３）その他

事務局　夏の特別展ですが、平塚の空襲と戦災を記録する会の方達が主体となって、証言を集め記録を取るなどの調査をされました。図録の一部を見たのですが、事実の持つ迫力や記録することの重要さを感じさせられる企画展になっていますので、ぜひご覧いただきたいと思います。

事務局　図録の執筆も会員の市民の方がされています。

委　員　いつも立派な図録を作られていますが、販売で収入になるのですか。

事務局　有料頒布の場合印刷原価を基準にしていますから、たくさん売っても、原価を超えて「もうかる」というわけではありません。

委　員　資料には収入とありますが、それは「稼ぐ」というスタンスではないわけですね。

事務局　基本的に博物館は教育のための機関ですので、刊行物などについても、地域について調査した成果を共有して利用していただくため、やむを得ず印刷代金を頂戴するという理念で実施しております。

委　員　「収入」という用語の印象の問題ですね。

委　員　来館者層を惹きつける手段として、グッズの充実や、展示を見学した後、ちょっと美味しいコーヒーを飲んでくつろげるようなカフェテリアなどを検討するお考えはありませんか。

事務局　美術館は開館時からレストランを設けていますが、そうした施設を博物館に後から入れるのはスペース上むずかしいと思います。

委　員　文化センターでひとつという形もあるかと思いますが。

事務局　青少年会館にも食堂がありますが、高級な食事やお茶が求められているかというと、どうでしょうか。そういうところでも、採算面はむずかしいようですから。

委　員　また来館者の方も、遠くからより、市内の方が多いのでしょうね。

事務局　次回開催は 12 月を予定しておりますが、改めて調整させていただきまので、よろしくお願いします。